

人と意見

アグリビジネス時代に備えて勇猛心を！！

農林省農業総合研究所長

東京大学農学部長 神谷慶治

アメリカを例にとるならば、歴史的に農業革命が3度行なわれている。即ち1850年代頃から始まった人力が畜力に替って来たこの時代で、これを第1期とすると第2期は1920年代に始まる畜力を機械化に移していった時代である。そして第3期は現在行なわれつつある企業化農業への革命ということになる。

畜力が機械力に替る第2期革命は、アメリカでは、殆んど完成されているとみてもよいと思う。日本でも第2期の革命は現在進行中である。

ところで、企業化農業＝アグリビジネス＝革命が起こったのは農業が農家1戸の家族を中心とした小さい単位（家族労作経営又は小農経営）では利益を追求することが出来なくなった時代を背景に農業構造の改革が必要となったことに起因する。

稲を作るにしても、桃を作るにしても、乳牛を飼うにしても、栄養分となる肥料・飼料は大企業の製品を利用しており、自給して作るより買った方が安上りになって来た時代である。管理面でも農薬、耕耘機、搾乳器等、大部分が大企業の産物であることは岡山県の農家も例外ではないであろう。

更には農家を作る生産物をみると、牛乳等にみられるように買い手もまた大企業となっているのである。

農業は農家が担うものだと思っていた時代は過ぎて、農業資材を買って来る先も、生産物を売る先も、また大企業と農業の両隣りが大企業になっているのが現実の姿であることに気がつくであろう。

1人農業のみが昔の殻にとじこもっているのは時代錯誤で、こうした社会構造の変革に対して、農業も企業化することが先ず基本的日本農業の進路であり、また現実にもその方向に農業は既に踏み込んでいるのである。曲り角に来ている農業とっておる階段はもう過ぎて完全に曲り切っていることを認識して考えを改める必要がある。

孤立的農業を社会化していく方法として政府は農業構造改善政策を打出している。誠に結構とは思いますが一方で過剰人口を整備する社会政策にもっと懸命な策を講ずる努力が必要であると思う。

一方構造改善は農家だけがするのではなしに、農林省も、大学試験機関も、農業協同組合も目前の問題としてやらねばならないことである。しかして企業的農業の新しい生産方法を作り出す人が出るかどうかに農業の浮沈がかかっている。

誰がやるか？ これはアグリビジネス革命時代に備えて、勇猛心を振りおこす人のみに担う資格が与えられるのである。農業はいかにあるべきかと悩む時間を一步突っこんで他産業と一環した企業化農業の新しい生産方法を作り出した人、又はその地域が農業の前進をおし推めていくことになるだろう。必ずしも既存の農業者がその担い手とは限らない。或る程度の危機をおかしても実行する能力のある人が新しい農業の方向を作り出していくのである。既にそういう人は農村のどこかにいる筈である。